

認定第1号 令和6年度東郷町一般会計歳入歳出決算

認定について

討論一覧（討論順掲載）

反対討論 門原武志 議員

新町長の独自色が見られなかった

小中学校体育館のエアコン工事設計など評価すべき事業はあるが決算認定に反対する。当初予算は前町長によるハラスメント事案の影響で骨格予算とされ、ハラスメント事案に一定の結論が出た後、補正予算で本格的な編成が行われると理解し、前町長の政策が含まれない暫定的な予算だと判断し、賛成した。しかし新町長就任後、当初予算が骨格予算だったという考え方はしないとの説明がされ、その後の補正予算にも新町長の独自色が見られなかった。ハラスメント対応の外部の窓口設置は評価するが、前町長の事案が契機であり、誰が町長でも必要な施策である。地域公共交通については丁寧に進められているが、計画通りに進められているだけに見えるべき進展がなく、新町長の独自性が感じられない。

賛成討論 中野まさひろ 議員

子ども議会中止と不妊治療費助成廃止は誤り

小学1～3年生までの30人学級の実現等々、多くの評価すべき事業はあったが、「子ども議会の中止」と「不妊治療費助成の廃止判断」は誤りであった。

「子ども議会」は、私の初めての一般質問に対する答弁で開催が公表され、令和元年度から5回の開催で、延べ39名の小中学生から83件の提案があり、全国に先駆けての、生理用品の小中学校の女子トイレへの配備等の多くの素晴らしい提案が町政を動かした。子どもたちやご家族、マスコミを通じて町政に対する関心の増大効果は非常に大きかった。

「不妊治療費助成」は、子ども医療費の助成とともに、東郷町の子育て支援・少子化対策の柱であった。保険適用による国県の助成廃止により、負担が増えるケースもあり、令和6年度の助成は104件705万円余りで、令和3年度以降最多。令和5年度の出生数259人と比べても件数は決して少なくない。本町の少子化が急速に進んでいる中、廃止は誤り。